

# かぼちゃ・・・Ⅱ

担当者 技能研究員 深海健太郎

試験課題名	北海道ブランド品種系統選定試験	
目的	北海道に適した多収・高品質の品種を選定するため比較検討し普及に資する	
期待される成果	優良品種の導入により、生産の安定と経済性の向上を図る。	
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所 和寒町蔬菜組合連合南瓜部会 花野菜技術センター	JA北ひびき和寒基幹支所 上川農業試験場

## 1 供試品種・資材

品種

※えびす(タキイ) くりゆたか7(みかど協和) 満 盃(八江農芸)  
No. 571 (タキイ) 黒海南瓜(神田育種) 黒皮味マロン(大学農園)  
No. 190 (武蔵野種苗園) くりほまれ(サカタ) SB3018 (雪印種苗)

※基準品種

マルチ資材

生分解性マルチフィルム(サンブラック工業株式会社)

## 2 耕種概要

土 壌 ～ 灰色低地土(埴壤土)

前 作 ～ 越冬キャベツ

播 種 日 ～ 5月31日

定 植 日 ～ 6月16日

収 穫 日 ～ 9月13日

整 枝 方 法 ～ 子蔓2本仕立て

栽 植 密 度 ～ 畦幅4m×株間0.75m 333株/10a当たり

試 験 区 面 積 3.75m×4m 2反復

## 3 土壌診断結果と施肥量

### (1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P205	K20	MgO	CaO	熱水抽出N
5.92	0.058	58.5	37.1	41.1	453.3	6.3

### (2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

炭カル～102kg 堆 肥～2,000kg

### (3) 施肥内容 (成分量%)

基 肥～硫酸アンモニア (21-0-0) 6月13日 マルチ幅 全層施肥

基 肥～粒状過磷酸石灰 (0-18-0) 6月13日 マルチ幅 全層施肥

基 肥～硫酸加里 (0-0-50) 6月13日 マルチ幅 全層施肥

### (4) 肥料の要素量

(kg/10a)

		N	P	K
基 肥	硫酸アンモニア 14.2kg	3	-	-
基 肥	粒状過磷酸石灰 26.3kg	-	5	-
基 肥	硫 酸 加 里 10kg	-	-	5
合 計		3	5	5

## 4 調査項目

生 育 調 査 ～ 播種日・発芽期・発芽率・定植日・定植時の苗質・初期生育

雌花開花期・着果節位・着果期・収穫日・成熟日数・草勢・うどんこ病

果実特性調査～果形・果皮色・肉厚・果肉色

収 量 調 査 ～ 10a当たり収量・収量比・1株当たり平均個数・平均一果重・規格別割合

食 味 調 査 ～ 粉質程度・甘味・食味

貯 蔵 調 査 ～ 糖度(Brix)・腐敗率

## 5 生育調査

項目	品種	えびす	くりゆたか7	黒海南瓜	満盃	くりほまれ
播種日		5月31日				
発芽期		6月8日	6月7日	6月8日	6月9日	6月8日
発芽率(%)		98	100	100	100	98
定植日		6月16日				
定植時の苗質	最大葉長(cm)	2.4	2.8	2.2	2.9	2.5
	葉数(枚)	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
初期生育 播種後45日 (7月19日)	つる長	149.8	106.5	182.4	162.3	187.7
	葉数(枚)	10.9	9.4	12.3	11.2	12.9
	草勢	3	3	4.5	3.5	2
	うどんこ(0~4)	0	0	0	0	0
9月5日	つる長(cm)	303.8	371.2	360.5	371.6	445.5
雌花開花期	雄花	7月24日	7月27日	7月22日	7月22日	7月23日
	雌花	7月25日	7月28日	7月24日	7月24日	7月24日
着果節位(節)		9.2	9	7.8	8.1	7.7
着果期		7月26日	7月28日	7月26日	7月28日	7月26日
収穫日		9/13				
成熟日数		50日	49日	50日	48日	50日

## 5-2 生育調査

項目	品種	黒皮味マロン	No. 571	No. 190	SB3018
播種日		5月31日			
発芽期		6月8日	6月8日	6月7日	6月8日
発芽率(%)		100	100	100	100
定植日		6月16日			
定植時の苗質	最大葉長(cm)	2.5	2.2	2.7	2.7
	葉数(枚)	1.0	1.0	1.0	1.0
初期生育 播種後45日 (7月19日)	つる長	183.4	176.4	172.0	195.1
	葉数(枚)	11.5	12.0	12.7	12.3
	草勢	5	3	2.5	1.5
	うどんこ(0~4)	0	0	0	1
9月5日	つる長(cm)	554.7	386.3	467.2	409.9
雌花開花期(8月)	雄花	7月23日	7月23日	7月22日	7月22日
	雌花	7月24日	7月24日	7月25日	7月24日
着果節位(節)		7.7	7	8.4	7.8
着果期		7月27日	7月26日	7月27日	7月26日
収穫日		9/13			
成熟日数		50日	49日	51日	48日

## 6 果実特性・収量調査

項目	品種	えびす	くりゆたか7	黒海南瓜	満盃	くりほまれ
果形		扁平	扁平	扁円	扁平	豊円
果皮色		緑	緑	緑	濃緑	濃緑
肉厚	赤道部(cm)	27.7	30	32.1	24.6	26.5
	花痕部(cm)	23.5	19.8	19.6	21.1	17.2
果肉色(濃5~1淡)		3	4	4	2	2
10a当たり収量(kg)		1,275	1,459	1,976	1,242	1,745
収量比(%)		100	114	154	94	136
1株当たり平均個数		1.7	1.9	2.2	1.7	2.2
平均一果重(kg)		2.25	2.3	2.69	2.19	2.37
規格別割合(%)	良果	76.4	84.2	90.9	70.5	100
	不良果	23.6	15.8	9.1	29.5	0
良果収量(kg/10a)		969	1,225	1,778	869	1,745
規格別割合(%)	4玉	41.1	15.8	81.0	18.8	45.5
	5玉	23.5	73.7	14.3	50.0	27.3
	6玉	23.5	10.5	4.8	18.8	13.6
	7玉	5.9			12.5	
	8玉	5.9				9.1
	9玉					4.5

## 6-2

項目		品種	黒皮味マロン	No. 571	No. 190	SB3018
果 形			紡錘	豊円	扁平	円筒
果 皮 色			濃緑	緑	濃緑	黒緑
肉 厚	赤道部(cm)		26.8	25.1	25.1	23.9
	花痕部(cm)		29.1	21.5	16.7	20.7
果肉色(濃5~1淡)			2	4	2	2
10a当たり収量(kg)			1,950	1,174	1,540	1,190
収 量 比 (%)			152	92	120	93
1株当たり平均個数			2.5	1.7	2.1	1.4
平均一果重(kg)			2.34	2.07	2.18	2.55
規格別割合(%)	良 果		84	100	100	100
	不良果		16	0	0	0
良果収量(kg)			1,638	1,174	1,540	1,190
規格別割合(%)	4玉		38.5	17.7	15.0	50.0
	5玉		42.3	47.1	55.0	35.7
	6玉		19.2	17.7	18.8	7.1
	7玉			5.9	12.5	7.1
	8玉			5.9		
	9玉			5.9		

## 7 食味・貯蔵調査

項目		品種	えびす	くりゆたか7	黒海南瓜	満盃	くりほまれ
10月14日	甘 味 (強5~1弱)		3.0	4.0	2.8	2.4	3.4
	粉 質 程 度 (強5~1弱)		3.0	3.2	3.8	2.7	3.0
	食 味 (良5~1不良)		3.0	3.4	3.5	2.5	3.1
	乾物率 (%)		22.2	24.4	20.6	26.9	24.2
	糖度(Brix)		10.8	13.5	13.9	10.3	11.9
12月 8日	甘 味 (強5~1弱)		3.0	3.3	2.8	3.7	2.9
	粉 質 程 度 (強5~1弱)		3.0	3.1	2.5	2.6	3.1
	食 味 (良5~1不良)		3.0	3.0	2.6	3.1	3.1
	乾物率 (%)		18.5	22.2	17.2	20.4	21.1
	腐敗率 (%)		37.5	70.0	72.7	44.4	43.7
	糖度(Brix)		11.8	10.2	10.4	12.2	11.4

## 7-2

項目		品種	黒皮味マロン	No. 571	No. 190	SB3018
10月14日	甘 味 (強5~1弱)		3.7	3.4	3.2	3.1
	粉 質 程 度 (強5~1弱)		2.3	3.2	3.0	2.8
	食 味 (良5~1不良)		2.7	3.1	3.1	3.0
	乾物率 (%)		27.1	24.0	19.9	30.9
	糖度(Brix)		12.2	12.7	15.0	11.0
12月 8日	甘 味 (強5~1弱)		2.9	2.7	2.7	3.0
	粉 質 程 度 (強5~1弱)		3.4	2.8	2.9	2.3
	食 味 (良5~1不良)		2.9	2.7	2.8	2.7
	乾物率 (%)		25.7	22.6	22.2	21.3
	腐敗率 (%)		22.2	71.4	28.5	25.0
	糖度(Brix)		13.9	11.5	10.2	13.1

## 8 防除歴

殺 虫 剤		殺 菌 剤	
8月 9日	モスピラン水溶剤	8000倍	7月21日 ストロビーフロアブル 500倍
			7月25日 クラムス水和硫黄剤 1000倍
			8月 2日 ダコニール1000 1000倍
			8月 9日 クラムス水和硫黄剤 1000倍

## 9 試験結果概要

### (1) 生育経過

72穴セル成型トレーにポットエースを使用して、5月31日に播種を行った。発芽はほぼ一斉となっており、6月の7日から9日の間で発芽した。

定植時の苗質は6月16日に測ったところ、基準品種のえびすが葉長2.4cmとなっており、全品種の平均は2.5cmである。2葉目が出る前に定植したため、全ての品種の葉数は1枚となっている。

初期生育では、品種によってつるの長が大きく異なった。特につるの長さに差が見られた品種はくりゆたか7である。つるの長の平均が168cmの中、くりゆたか7は106cmと昨年同様とても短い。つるの長さに対して葉数はあるので、やはり短節間の特性だと思われる。

しかし生育中期になってもつるの伸びは悪く、最終的に平均つるの長は4mとなった。一番つるが長い品種である黒皮味マロンでも554cmとなった。

開花は雄花が各品種7月22日から咲き始め、雌花はそれぞれの雄花が開花した翌日から咲き始めた。

### (2) 果実特性・収量調査結果

1株あたりの平均着果数は1.9個となっているが、黒皮味マロンの2.5個、黒海南瓜・くりほまれの2.2個など平均2個着いているもの以外では、SB3018が1.4個、えびすと満盃が1.7個と着果数の落ち込みが目立つ品種があった。

収量は着果数に概ね比例しており、黒皮味マロンが1,950kg、黒海南瓜が1,976kg、くりほまれが1,745kgとなった。黒海南瓜は1果重がとても重かったため、収量に反映された。

収穫したかぼちゃの中から良果・不良果を選別した場合の良果収量は、黒海南瓜 1,778kg > くりほまれ 1,745kg > 黒皮味マロン 1,638kg > No. 190 1,540kg > くりゆたか 1,225kg > SB3018 1,190kg > No. 571 1,174kg > えびす 969kg > 満盃 869kgの順になった。

### (3) 食味・貯蔵試験結果

10月14日に1回目の食味試験を行った結果、甘みはくりゆたか7が4.0、粉質は黒海南瓜が3.8、食味は黒海南瓜が3.5とそれぞれ高く評価された。その後、12月8日に2回目の食味試験を行った。品種による適食時期の違いが大きく表れたのか、くりゆたか7の評価はえびすとさほど変わらなかった。10月に評価の低かった満盃が、甘みと食味の評価が高かった。

貯蔵試験は風乾後、農協倉庫で貯蔵・保管した。12月7日での腐敗率はくりゆたか7・黒海南瓜・No. 571の3品種が70%を越える程腐れが激しかったが、その他の品種は20%から40%になった。

それぞれの品種を乾燥させ乾物率を調べた結果、どの品種も10月の測定結果よりも12月の測定結果で乾物率が低下していた。その中で安定して数値が良かったものは黒皮味マロンである。10月 > 27.1% から 12月 > 25.7% と乾物重量の変化が少なく、数値も高かった。

### (4) 考察

今年度は昨年腐敗率が0%だったNo. 571が今年はとても腐敗していた。生育環境によって収量は左右されるが、安定した収穫が見込める品種ではないということだと考えられる。

その中で、黒皮味マロンは収量、腐敗率、糖度も水準であるえびすよりも高く、来年度以降の試験では有望品種となり得るのではないかと思う。

食味試験を通して、10月にとっても美味しかった品種が12月になると粉質程度が落ち甘みも低下していることがあった。12月に食べ頃を迎える品種もあり、品種によって食べるのに適した時期が全く違うことを実感できた。

北海道ブランドかぼちゃは、安定した収穫のある品種を選定することが目的である。しかし、その過程で1つの品種を決めることにこだわらず、時期ごとに一番美味しく食べられる品種をそれぞれ選定することも大事なのではないかとも思う。